

〈史料翻刻〉

紀州藩家老三浦家文書（二三）

—江戸出府日記・御用番留帳—

上村雅洋

凡例

五三 江戸出府日記（寛文九年十一月朔日～十一月晦日）

五四 江戸出府日記（寛文九年二月朔日～二月二十九日）

凡 例

一 本文書は、和歌山大学紀州経済史文化史研究所蔵の紀州藩家老三浦家文書であり、日記類を中心にほぼ年代を追って逐時翻刻する。三浦家文書については、本誌第四号所収の「紀州藩家老三浦家文書目録」を参照されたい。

一 史料名は、できるだけ「紀州藩家老三浦家文書目録」を踏襲した。

一 使用字体は、常用漢字を用い、それ以外は異字・俗字・略字もなるべく原文のままを尊重した。

一 仮名文字は、江・而・者・茂以外は、すべて現行の字体に改めた。

一 印刷にさいしては、なるべく原本の体裁をとどめることを原則としたが、組版の都合上一部改めた。

一 本文が訂正されている場合は、書き改められたものを採用した。

一 印章はいちいち模刻せず、・のように輪郭を模した。

一 虫損・破損などによって文字が判読できない場合には、字数を推定してで埋め、字数が推定できない時は、をもってその箇所を示した。

一 本文以外の部分は、上下に「」を付し、(表紙) (端書) (異筆) (付箋) などと傍注した。

一 文字の誤脱などには()で傍注を加えたが、判読可能なものについては、特に注記しなかったものもある。

一 文意の通じないもの、疑義のあるものには(ママ)と傍注し、推定可能なものには(カ)と傍注して意見を示した。

一 本文書の筆耕ならびに校訂は、上村雅洋(本学名誉教授)が行なった。

五三 江戸出府日記

〔表書〕
寛文九年

西ノ十一月朔日

十一月朔日 冬至

今朝四過ニ罷出候処ニ、昼時分ニ表御座之間へ出御被遊、
首尾能致御目見、今日之御祝儀申上候、其以後又被召出し
バラク御前ニ罷有、八時分ニ御中屋布罷出、左京様へ致伺
公、夫方御上屋敷へ罷出、安宮様、長光様へ御祝儀申上候、
長光様へハ則致御目見御のし頂戴仕、夫方御用人衆部屋迄
参、八過ニ帰宿仕候

同二日

今朝五過ニ宿罷出、上野へ参候、其次而ニ沼間新五、朝倉
仁左衛門殿、大岡弥右殿へ先日見廻之礼返しニ参、夫方大
森信濃殿へ見廻、夫方佐野内藏丞殿へ参候、是ハ駿府ニ御
入候へ共、留主見廻也、同三郎右殿、新左衛門殿へも伝言
申置候、夫方本多下野殿へ参候、是も白川ニ御入留主にて
候へ共見廻、夫方沼間新五左へ見廻、夫方正木甚五兵へ度々

見廻之礼返し旁ニ参、夫方於上野先双巖院へ参、但銀子壹
枚持参、夫方双巖院致同道大師堂へ参詣仕候、但銀子一枚
献上、夫方日門様へ伺公仕候、但巻物二卷進上、御玄関ニ
而申置可罷帰と存候処ニ、幸出御之御時分ニ而首尾能致御
目見御こんふ頂戴、其上了法寺ニ大師堂立申候儀迄被仰出、
冥加至極成仕合也、扨内々被召寄御茶可被下との思召之由、
左候へハ来廿一日御茶可被下との御意ニ御座候由、此段双
巖院ニ被仰付、近日双巖院私宅へ被参被申聞答の由、今朝
被申聞候ニ付、左候ハ、先今日御礼申上度奉存候由、双巖
院へ申候へハ、尤之由ニ而、則於御前ニ御取次衆右之御礼
ヲも被申上給候、就夫候ても過分難有御意也、扨御前退出
仕、双巖院へ拙者申候ハ、右御礼ハ申上候、致伺公候儀ヲ
ハ御免被下候様ニ御心得頼入候、過分成仕合ハ可申上様無
御座候へ共、何として恐ケましく御茶など被下候儀ハ憚入
奉存候間、何分ニも御わびこと頼入候由、くれ〳〵双巖院
へ申達候、夫方又双巖院同道ニ而了善院、旦那院へ参、扨
双巖院と暇乞いたし、毘門主御留主ニ御座候へ共、御寺へ
致伺公、夫方太田備中殿へ見廻、安藤九郎左殿、水野主膳
方、畠山牛庵老、堀田助左殿、同善右殿、浅羽三右殿へ先

日の礼返しニ参、夫方御中屋布へ致伺公御機嫌奉伺、七過ニ帰宿仕候

同三日

今朝四過ニ罷出、御機嫌奉伺、八過ニ帰宿仕候、夜ニ入浅井駒之助奉ニ而忝御意之旨被申聞、御鷹ノ雁致拝領候、御歩行衆松浦伝五郎持参被申候、則為御礼罷出、駒之助方ニ御礼之段申達、市十、平次右ニも右之旨申達、追付帰宿仕候

同四日

今朝五過ニ宿罷出、野間三竹、川合善兵殿へ礼返しニ参、夫方片桐石見殿へ見廻、しばらく語り、夫方野瀬秀善、同小三郎殿、木下左近殿へ礼返しニ参、夫方柳生飛彈殿頃又御見廻候、其礼返しニ参、夫方水谷左京殿へ見廻、扨御中屋布へ罷出候処ニ相模守殿御出、御帰之節御女関迄御見おくりニ罷出、夫方御前へ罷出、しばらく御前ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

一夜前致拝領候御鷹之雁今晚披キ頂戴仕候、就夫原田市十、加納平次右、宮地久右、福岡太郎八、松下左五へ書ヲ申請候、松平九郎左ハ当番故不被参候、菅沼九兵も見廻被申候、

茶の時分宗佐も見廻申候、役者ニ而喜大夫、平兵衛、惣兵衛呼うたわセ申候、何も八過ニ被参、夜ニ入四過ニ帰り被申候

同五日

今朝四過ニ長光様今度始而中屋布へ被為入候、就夫御能被仰付候、高砂喜大夫、田村伝之丞、祝言喜大夫、右三番とくと御覽被遊御機嫌能御帰被為成候、大殿様御太悦之御事也、今度御参府始而御能被仰付、目出度御事とも也、長光様御帰以後御鷹之雁之御料理拙者共ニ被下、七時分ニ退出

一右為御祝儀御上屋布へ罷出、安宮様、長光様へ御悦申上候、長光様へハ則致御目見、御のし頂戴仕候、御用人衆部屋へも参候

一左京様へも致伺公御祝儀申上候、拙者儀今朝四前ニ罷出、七過ニ帰宿仕候
一御入内ニ付為上使松平美作守殿今日御当地発足、先日待從ニ被仰付候由、今度上京之人數千六百余の由

同六日

今晚左京様へ片桐石見殿御振廻被成候ニ付、拙者ニも御勝手へ参候様ニと御意ニ付、今日四過ニ御中屋布へ罷出、御

機嫌奉伺、夫方八前ニ左京様へ致伺公候処ニはや石見殿御出候、然所ニ上村志摩守殿、小坂助六殿同道ニ而御出幸との儀ニ而御振廻出緩々と御咄、七過ニ志摩助六殿御帰候、石見殿ハ少御用御座候而御残、日ノ入合ニ御立候、帰りニ石見殿私宅へ御立寄ししばらく御語り、日暮候て御帰候、葛野九郎兵衛參候

同七日

今日從御台様、安宮様へ女中之御使御座候由、就夫大殿様へも御肴一種被進忝被為思召、拙者共ニも右御肴見申候様ニとの御意ニ御座候

一八前ニ長光様与風御中屋布へ被為入、大殿様御機嫌の御事も、内々しかみ之御面御所望ニ被思召之由被仰上候ニ付、大殿様御太悦の御事ニ而、則被進之候いたいけなるてくヲも被進、御機嫌能八過ニ御帰被為成候、拙者儀今朝四過ニ罷出、七前ニ帰宿仕候

同八日

昨日從御台様御拝領被遊候御肴今日御披キ被為成候、何も左京様御前ニ而右御肴頂戴仕御酒被下候、扱又今度大殿様御気色御本復被遊候、御いわひ心ニ拙者なども御料理被下

候、医者衆ニハ御料理被下、其上御褒美なと被下置候、左京様御前ニ而何も御酒被下候内、御はやし御座候、拙者儀今朝四過ニ罷出、七前ニ帰宿仕候

同九日

今朝四前ニ出嶋弥太郎殿へ參候、先日始而御出候礼也、夫方渡部源藏殿へ立寄候、其節山野勘十郎參始而知人ニ成、しばらく語り候て、夫方長井清大夫殿へ、先日御見廻候へ共、致他行逢不申候ニ付立寄候、少之間語り、夫方森川伝右殿へ、是も先日御出候礼返しニ參候処ニ、留主ニ而申置候、夫方石谷土入へ見廻可申と存候処ニ、市十、平次右方御用有之由被申越候ニ付、先御中屋布へ罷出、右兩人ニ逢申御機嫌ヲも奉伺、夫方土入へ見廻ししばらく語り申候、然所ニ御松姫様方為御使真田弥三右衛門被成下、拙者娘祝儀相濟候御祝儀と被為成御意御肴致拝領候、娘ニも御巻物なと被下候由申越候ニ付、直ニ御松姫様へ致伺公候而、弥三右衛門ニ右御札之段申達、七時分ニ帰宿仕候

同十日

今朝五過ニ宿罷出、久世大和守殿へ參候、是ハ気色見廻、又先日浅井駒之助ニ我等噂被仰候礼旁也、夫方御上屋敷御

用人衆部屋迄罷出、真鍋五郎右衛門儀御使番ニ被仰付之旨
昨日御渡御座候ニ付、中川七左ニ右之御礼申達、夫方御中
屋布へ罷出候

一大殿様登前ニ表御座之間へ出御被遊候、則致御目見しバラ
く御前ニ罷有、真鍋五郎右衛門御礼ヲも申上、昼過ニ帰宿
仕候

一今晚八時分ニ内藤若狭守殿江振廻ニ參候、渡部源藏殿、正
木甚五兵衛、小嶋助左衛門殿御出、菅沼九兵衛、同半之助、
日根野九郎三郎も御呼候、幸若彦右衛門兄弟參、舞御座候、
とりウリなども參、道具ヲ見候而、緩々と罷有、夜半時分
ニ帰宿仕候、九郎三郎、半之助ハ日暮候而、追付罷帰候

同十一日 夜ニ入雨降

今朝四時分ニ罷出、御機嫌奉伺、昼過ニ帰宿仕候、今晚左
京様へ内藤若狭守、坂部三十郎殿、同三之助殿、小嶋助左
衛門殿、佐野福阿弥なと御振廻被成候ニ付、拙者儀御勝手
へ參候様ニと被仰下候ニ付、七時分ニ致伺公夜ニ入、四前
ニ帰宿仕候

同十二日

今昼過ニ為上使石川美作守殿御出、肥後蜜柑一箱御拝領被

遊候、則為御礼左京様御上ケ被為成候、御当番御老中迄加
納平次右衛門被遣候、拙者儀昨晚左京様ニ而之御酒ニ痛申
候ニ付、今日ハ罷出間敷と存候処ニ、右上使御座候由承、
俄ニ罷出首尾能致御目見、八過ニ帰宿仕候

一夜ニ入、畔田半右奉ニ而見事成御肴致拝領、冥加至極成仕
合也、則御礼ニ可罷出之処ニ、今晚ハ延引いたし候様ニと
半右方被申聞候ニ付而、伺其意先半右迄以使者申達候

同十三日

今朝四前ニ罷出、夜前御肴致拝領候御礼畔田半右へ申達候、
其以後致御目見しバラく御前ニ罷有、右之御礼ヲも申上
候

一八時分ニ日近聖人被召出御対面被遊候、其節もしハらく御
前ニ罷有候、扨日近と語り候様ニと御意被成、御前ニハ被
為入候、扨御次之間へ致退出良しバラく語り申候、日近へ
ハ御料理出申候、市十、平次右馳走被申候故、拙者ハ七半
時分ニ帰宿仕候

同十四日

今朝四時分ニ罷出、頓而致御目見しバラく御前ニ罷有、
昼過ニ退出仕、八時分ニ宿罷出、久世大和殿気色本復ニ而

昨日登城被成候為祝儀見廻、夫方太田備中殿へ振廻ニ參候、色々之馳走ニ而幸若八左衛門舞も御座候而緩々と語り、夜半時分ニ帰宿仕候、舞ハあつもり其外小舞数々也、後ニ小性立数馬クセ舞など舞申候

一備中殿ニ而東野州筆古今集棚ニ置候

同十五日

今日吉日ニ而長光様御袴着被遊候、去十一日公方様御上下ヲ從御台様、安宮様へ被進、其御上下今日被為召初候、今朝四時分ニ長光様御中屋布へ御出被為成候、宮様ニも被為入候、扱御座之間ニ而大殿様右之御上下御めさせ被為成候、宮様ニも御同座ニ被為成御座候由、右為御祝儀大殿様方信國之御脇指長光様へ被遣候、右御いわひ相濟、扱左京様御座之間へ御出被成、長光様ニ御対面被遊候、其節拙者も被召出致御目見、御上下被為召候御様子奉見、千秋万歳と御悦申上候、対馬守ハ未御城方不罷帰候故、其以後御目見仕候、扱良しバラく長光様御遊被成、御帰之節ハ大殿様方被遣候御上下被為召御暇乞被遊御帰被為成候、其以後拙者儀御いわひ之御酒被下、八時分ニ退出仕候、対馬守ハ其前一罷帰候

一右為御祝儀大殿様、安宮様、長光様へ御肴指上ケ申候

一今日於御城松平左兵衛督殿御息女、松平薩摩守殿御子息條理殿へ御縁組被仰付候、就夫大殿様重畳之御悦ニ而御機嫌之御事也

一御中屋布罷出、左京様へ致伺公、右之御祝儀御用人衆迄申達、夫方御上屋敷へ罷出、宮様、長光様へ御祝儀申上、御用人衆部屋へも參、夫方左兵衛殿へ致伺公、先與様へ今日之御祝儀旁申上、夫方左兵衛殿御玄關へも參、右之段申達、七時分ニ帰宿仕候

一先日致拝領候御肴、今晚ひらき頂戴仕候

同十六日

今朝四時分ニ昨日之為御祝儀因幡與様御中屋布へ被為入候、昼過ニ相模殿も御出被成候
一昨日長光様御中屋敷ニ而御袴被為召初候、為御祝儀安宮様方御肴拝領仕候
一昨日米姫様御縁辺被仰出候、為御祝儀大殿様、御松姫様、左兵衛殿へも御肴指上ケ申候
一八過ニ高木伊勢守殿御出、御対面被遊緩々と御咄、七時分ニ御帰候、拙者儀今朝四過ニ罷出、七過ニ帰宿仕候

同十七日

今朝上野へ為御代参加納平次右衛門御上ヶ被為成候

一 昼過ニ水戸様御出被為成候、其節大殿様御膳被召上候御時分ニ而御座候故、先御対面所ニ而左京様しばらく御咄被為成、扱御座之間へ御廻り被成良しばかり御咄御座候而、御帰被為成候

一 殿様御国ニ被為成御座候節、柳生吉兵衛来春御国へ御越候様ニと、飛彈守殿へ拙者を以、去年被成御意候通、来春御

下向前御国へ吉兵衛御越給候様ニと飛彈殿へ拙者ニ可申旨、此度大沢善右衛門ニ被仰下候ニ付而、今朝飛彈殿江參、其段申候へハ、いかにも相心得奉存候、併吉兵衛儀当秋おこり相煩頃迄気分透と無御座由ニ候間承候而、拙者方迄御請御申可有由

一 御上屋敷へ罷出、昨日安宮様方御看致拝領候御札申上、夫方四過ニ御中屋布へ罷出、七時分ニ帰宿仕候

一 夜前夜更候而帶刀屋敷之ワキニ何者やらん切レ有候由、其段帶刀者町奉行衆へ届ケ申候処ニ、如例三日さらし候而知不申候ハ、すて可申由、又知申候ハ、其人ヲ同道仕參候様ニと嶋田出雲殿衆被申付候由、今日昼時分ニ御中屋敷ニ

而戸田藤左被申聞候、就夫帶刀留主居方へ大多和治右衛門見廻ニ指越候へハ、右之通ニ而其以後久保田又右衛門殿と申衆之者の由申来候ニ付、則又右衛門殿衆ヲ帶刀者同道いたし町奉行衆へ參候由

同十八日

今朝四前ニ水野民部殿へ見廻、先帰宿仕、四過ニ御中屋布へ罷出、暮合ニ帰宿仕候

同十九日

今朝四過ニ水野民部殿始而御中屋敷へ御出候、水野左近殿御同道也、民部殿太刀目録持參、惣而何方之も御留不被成候へ共、民部殿幼少之事、其上各別之御方ニ候故、披露御座候御のし出、民部殿へ御盃被遣、扱左近殿へ被遣候、民部殿家老上田玄番致供參候ニ付、御前へ被召出、其上御盃被下候、其盃拙者請取申候、民部殿御立之節、先年御好ニ而被仰付候八嶋いくさ之程乗ほり申候大小刀柄御手つくり民部殿へ被遣候、右御小柄ニ人形十八人、馬五疋、舟二船有之、拙者儀今朝五過ニ罷出、民部殿御帰以後、昼過ニ帰宿仕候

一 今晚山口焉求私宅へ被參候、先日之ごとく菅沼九兵、千宗

佐迄寄合申候、八時分ニ被參、夜半過ニ帰被申候、但宗佐ハ暮合リ參候

同廿日

昨日水野民部殿御同道ニ而御中屋布へ御出候ニ付而、旁忝之旨為御札昨日水野左近殿私宅へ御出候、一昨昨日も私宅へ御尋被成候ニ付而、旁為札今朝四時分ニ左近殿へ參候処ニ留主ニ而申置、夫方すくニ御中屋布へ罷出候、然所ニ昨日之為御札左近殿御出候ニ付而、則御玄関迄罷出、両度之御出今朝右為御札御宿所へ參候儀迄直ニ申達、扱御屋敷ニシハらく罷有御機嫌奉伺、昼過ニ帰宿仕候

同廿一日 昼時分迄雨降

今朝御堂江為御代參拙者被仰付候ニ付而、今朝六半前ニ罷出候、左京様ニも少御風気故、今朝者御參詣不被遊為御代參昔沼九兵衛御上ケ被成候、就夫拙者、九兵衛兩人ニ而御配膳相勤申候、長袴着シ申候、其以後拙者ハ御名代之御燒香相勤申候、其以後花一桶持上ケ自分ニ奉拝候、扱御殿江罷出、御代參相勤申候由、夜前之奉畔田半右ニ申達、四前ニ帰宿仕候

同廿二日

今朝五過ニ宿罷出、土井能登守殿へ參候、是ハ來晦日之晚御振廻可有との儀ニ付、其礼見廻旁ニ參、夫方石谷七之助殿、同五右衛門殿、伊沢三得齋へ見廻、夫方御中屋布へ罷出御機嫌奉伺、昼過ニ帰宿仕候

一八前三宿罷出、藤林助之丞所へ茶湯ニ參候、昔沼九兵衛兩人也、先石見殿へ參、シバラク咄、扱助之丞長屋へ參候、茶湯過候而石見殿も助之丞所へ御出、又シバラク語り、日暮候而帰宿仕候

一助之丞所ニ而之道具掛物一休横物、花入大キ成ぞりなりノ、茶入シふ紙手、そこニ利休判有茶わん樂燒黒但□ク、見ゆる茶杓織部釜爪ノなり、水指いかやきとう頭巾也、香箱□キ青がいはいちやくし、桑山左近殿方もらい候由

同廿三日

今朝四時分ニ罷出、御機嫌奉伺、昼過ニ帰宿仕候
一今晚小嶋助左衛門殿へ振廻ニ參候ニ付、八時分ニ宿罷出候処へ久世大和守殿御中屋布へ御出候由申來候ニ付、先御中屋敷へ罷出候処ニ、能時分ニ罷出、首尾残所無之大和殿御歸候と、則助左衛門殿へ參候、茶湯ニ而其以後書院ニ而取ウリ之道具など見、扱酒之上ニ而八郎右衛門小ウた舞など

見候而緩々と語り、夜ルノ八過ニ帰宿仕候

一かこいの道具為右之掛物かねの四方花入茶入坊主やき一筋なたれ有、

茶わん、茶杓遠州、番箱黒ぬり、き、よう成

同廿四日

去廿一日、日門様御料理可被下由、先日双巖院を以被仰聞候へ共、御障入御座候ニ付御指延被為成、来月二日之晩御料理可被下之旨、双巖院ニ被為仰聞候由被申聞候ニ付而、

今朝四時分ニ宿罷出、上野へ参双巖院同道いたし御玄閑迄伺公仕、右之御礼坊官衆へ申上、夫方直ニ御中屋敷へ罷出候沙汰ニ而候故、大久保甚兵衛殿江見廻申置罷通り候、御中屋敷へ八前ニ罷出御機嫌奉伺、八過ニ帰宿仕候

一今日ハ天台大師御澄月ニ而御座候ニ付、従大殿様為御代参成田八大夫上野へ被遣候故、双巖院ニ而合申候能時分ニ参、則天台大師之御影奉拝候

同廿五日

今朝四時分ニ可罷出と存候処ニ少御用御座候而、大久保八郎五郎被成下候故、少致延引昼前ニ罷出候

一昼過ニ表御座之間へ出御被遊、日近聖人ニ御対面被遊、しばらく御咄御座候而御庭へ出御被遊候、日近も退出、拙者

も帰宿仕候、市十郎、平次右衛門、其外も対馬守所へ振廻

ニ参、其節ハ御殿ニ不罷有候

同廿六日

今朝四時分ニ御中屋敷へ罷出候処ニ、去廿一日御入内目出度相済申候由、京都方御注進御座候由、御城附方申上候、其節御座之間へ出御被遊候ニ付罷出、致御目見御祝儀申上、昼過ニ帰宿仕候

一右御祝儀之為御使加納平次右衛門御指上ケ被成候、諸大名衆登城之由、就夫左京様ニも御登城被遊筈ニ御座候へ共、少御風氣故、菅沼九兵衛御上ケ被成候

同廿七日

今朝四時分ニ罷出、頓而致御目見しばらく御前ニ罷有候、例之時分退出可仕と存候処ニ、今晚方稲葉美濃守殿御出可有様ニ承候ニ付相待罷有候処ニ、七時分ニ御出緩々と御咄七半時分ニ御帰候、其以後又御前へ罷出、暮合ニ帰宿仕候

一公方様寒中御機嫌御伺之為御使齋藤源藏昨晚當着いたし、今朝御老中廻り、今晚方御前へ罷出候処ニ忝御意とも也、其節拙者も罷有御礼申上候

一曇花院様去廿一日御遠行之由申来候ニ付、今八時分ニ安宮

様御殿へ罷出、海野五郎三郎方ニ右之段申達候

同廿八日

今朝四時分ニ罷出、頓而致御目見しバラく御前ニ罷有、昼
過ニ御中屋布罷出候

一夫方左京様へ致伺公、それ方小川新九郎殿へ先日見廻之礼
返しニ参、少之間語、夫方安藤彦四郎殿へ参、今度奎之助
殿祝言之祝儀父子へ申候而しバラく語、夫方小嶋助左衛門
殿へ見廻先日之礼なと申置、夫方高田庄右衛門殿へ見廻し
バラく語、夫方御上屋敷へ罷出、宮様へ致伺公、今日之御
祝儀御機嫌ヲも奉伺、長光様へ致御目見、夫方御用人衆部
屋へも参、七前ニ帰宿仕候

一暮合ニ菅沼九兵、千宗佐被参緩々と語、夜半時分ニ帰被申
候

同廿九日

八時分方雨降

今朝四前ニ宿罷出、天野孫左衛門殿へ見廻少之間語、夫方
酒井作右衛門殿へ先日御出之礼旁ニ参候処ニ留主にて申置、
夫方田中孫十郎殿江見廻しバラく語、夫方御中屋布へ八前
ニ罷出、御機嫌奉伺、七前ニ帰宿仕候

同晦日

今晚土井能登守殿へ振廻ニ参候、八前ニ罷出候筈ニ御座候
故、御屋布へハ不罷出、直ニ能登守殿へ参候、中山満州、
渡部源藏殿、菅沼九兵衛、拙者四人也、野本幸加相伴也、
御茶道宗円一斎勝手者也、書院ニ而御振廻色々御馳走也、
懸物雪舟、竹ニすゞめ、香炉、かね物し之香台、朱のから
物、別而見事也、棚ニかうらいと相見、ぎり／＼の香炉、
つい朱之盆ニのる軸物まきゑ之硯箱、りやう紙ニのる、日
ノ入時分ニ罷立、路次方九兵衛、拙者又為礼玄関迄参、夫
方直ニ御中屋布へ罷出候、今晚酒井雅楽頭殿見廻之由ニ
付旁ニ罷出候、雅楽頭殿はや御帰候、市十、平次右、郷左
ニ逢申、六半前ニ帰宿仕候

五四 江戸出府日記

〔表書〕
寛文九年

西ノ十二月朔日

十二月朔日

今朝四時分ニ罷出候処ニ、頓而致御目見し、ばらく御前ニ罷有御機嫌残所無御座候、今日ハ納ノ朔日御機嫌も罷御座候間、御酒被下候様ニとの御意ニ而、何も寄合御酒被下候、然所ニ八時分爲上使松平因幡守殿御出、御気色之儀御懇ニ御尋、結構成上意ニ而白鳥之毛がわ拾枚入沓箱并御くわしあめんとをる一箱御拝領被遊候、則御前へ対馬守、拙者なと持罷出候、大殿様忝被思召御太悦其か人も無御座候、則爲御礼左京様御登城被遊候、拙者儀七時分ニ御中屋布罷出左京様へ伺公仕、夫方御上屋敷へ罷出、宮様、長老様へ御祝儀申上、御用人衆部屋へも参、七過ニ帰宿仕候

同日 八時分少雨、夜ニ入つよくふる

日門様今晚御料理被下候ニ付、昼時分ニ宿罷出、正木甚五兵へ少用所有候ニ付立寄、八前ニ双巖院迄参、追付双巖院

同道いたし、先大師堂へ致参詣、夫方御本院江致伺公候処ニ、円学院御出合候而、御書院へ罷通候様ニとの儀ニ御座候故、御勝手か無左ハはしの御座敷ニ而御料理頂戴仕度由色々申候へとも、旦那院も御出候而立而御申候故、無是非御書院へ罷通、御ゑんかわニ罷有候処ニ、日門様出御被遊過分忝御意ニ而、立而御しきいの内へはいり候様ニと御意被爲成候故、御次之御座敷御しきいの内迄漸々はいり申御礼申上候

一日門様被爲入候と追付御料理出候、旦那院、徳生庵、双巖院、拙者四人也、種々結構成御料理ニ而御吸物出候上ニ、又日門様出御被遊、御かわらけ出、御盃頂戴仕、則かわらけヲ持御勝手へ罷立候処ニ、円学院其盃可参由立而御申候ニ付相渡候へハ、則御前へ持参被申御取上ケ被爲成候、誠に冥加おそろしき仕合、可申上様無御座由申上候、扱入御被遊候御跡ニ而何も御酒御しい候而数盃被下候

一扱御茶くわし出、御茶被下退出可仕と存候時分、又出御被遊過分忝御意共ニ而入御以後退出仕候、扱爲御礼致伺公候儀必無用と旦那院、円学院御申候ニ付、左候ハ、せめて旦那院迄致伺公、御玄闕迄罷上と申候へ共、それも無用ニ

いたし候様ニ、直ニ旦那院も御本院ニ御待御座候間、追付

同四日

御礼ニ罷上候様ニと双巖院を以立而御申聞候故、無是非、御門前方御支闕迄致伺公候処ニ進藤主計殿御広間ニ御待居候而御礼之段御請取候、夫々毘門主御寺へ致伺公、今日ケ様之仕合偏毘門主様御影故と難有奉存之旨、御留主居之家衆ニ申達、夫々直ニ御中屋布へ罷出、今日之様子申上、偏御影故と難有奉存之旨、市十、平次右迄申達候処ニ、則達御耳御前ニも忝被為思召候、先今晚ハ退出仕候様ニ明日具ニ御聞可被成由御意ニ而、夜ノ五前ニ退出仕候

同三日 終日雨降

長光様御袴着被遊候、為御祝儀大殿様へ從殿様為御使水野対馬守以御樽肴御進上被遊候、其節拙者も罷出御あいさつ申上、其以後しばらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候
一大殿様今度御気色御本復被遊候、為御祝儀殿様方御手前之医者衆ニ御悦被下候
一齋藤源藏今度御使ニ參、障明明日罷上り候ニ付、今晚為暇乞私宅ニ而振廻申候、真鍋五郎右衛門相客也
一昨晚上野ニ而御振廻之御礼、則申上候へ共、弥可然様ニ御取成頼入候由、旦那院、双巖院へ以使者申達候

今朝四過ニ罷出、頓而致御目見、其以後御かこいへ被為成御筆兩通御かけ被為成御拜見被遊候、其節も被召出御あいさつ申上入御以後、昼過ニ帰宿仕候

一今晚方日向半兵衛殿へ菅沼九兵衛内ニ而見廻申候、今度縁者ニ罷成始而ニ而候故、太刀目録持參申候、幸宿ニ御入候而、吸物出盃こと御座候而退出仕候、日婦ハ留主ニ而逢不申候、手細わたならしなと持參申候

一青山藤右衛門殿頃御出候礼返しニ半兵衛殿方直ニ參候処ニ、幸宿ニ御入候而逢申、暮合ニ帰宿仕候

同五日 夜ニ入雨降

今朝四時分ニ罷出頓而致御目見、しばらく御前ニ罷有候、昼過ニ保科肥後守殿御出、緩々と御咄御料理ヲも參、七時分ニ御帰被成候、其以後拙者共も帰宿仕候

同六日

今朝五前ニ山中道与方へ茶湯ニ參候、福岡太郎八、菅沼九兵衛相客也、四過ニ帰宿仕、追付水野民部殿へ抱瘡之見廻ニ參、昼過ニ御中屋敷へ罷出候処ニ、松浦肥前殿御出御対面、御帰之時分罷出、致御目見御あいさつ申上、八過ニ帰宿仕

候

同七日

今朝四時分ニ御屋敷へ罷出候処ニ、御門口ニ而市十、平次右ニ逢申候故、何方へ被參候哉と相尋候へハ、左京様少御風氣ニ而、昨今御中屋布へも御出不被成候ニ付、御機嫌伺ニ伺公申之由ニ候故、左候ハ、拙者も伺公可申と同道いたし伺公仕、九兵、四郎兵へ御機嫌奉伺候処ニ、其段違御耳以御使忝御意ニ而退出仕、すくニ御中屋布へ罷出候

一大殿様御座之間へ出御被遊、御年譜御聞被為成候故、則罷出致御目見候処ニ、拙者ニも罷出可奉承之旨御意ニ付、御前ニ良しバラく罷有候、其節左兵衛様も御出御聞被為成候一大野聖人日延中風氣故、御訴訟申上頃隠居被致候、就夫御当地へ被參為御礼今日御中屋敷へ被罷出候ニ付御対面被遊候、其節も拙者罷出御あいさつ申上、八時分ニ帰宿仕候

同八日

今朝日向半兵衛殿、私宅へ御見廻可有との内証菅沼九兵衛被申越候ニ付而、宿ニ相待申候処ニ、少おそく候而、昼前ニ御出候太刀目録御持參也、尤九兵も被參候、吸物出し、盃を仕候、頓而御立候と、則拙者儀御屋布へ罷出候処ニ、

其儘致御目見良しバラく御前ニ罷有、首尾残所無之、八時分ニ帰宿仕候

同九日

今朝日近聖人へ見廻可申と存候処ニ、御堂へ被參候由承候ニ付幸と存、四時分ニ御堂ニ而逢申しバラく語候而御殿へ罷出候処ニ、則致御目見しバラく御前ニ罷有候、昼時分ニ石谷土入被參候ニ付御対面被遊候、其節も罷出御あいさつ申上、八前ニ帰宿仕候

同十日

今朝四時分ニ罷出、左京様へ致伺公御機嫌奉伺、夫々御中屋敷へ罷出候処ニ、追付致御目見しバラく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候
一今晚坂部三十郎殿へ振廻ニ參候ニ付、八時分ニ支度いたし罷出候刻、水野主膳見廻被申候、少物語致儀有之ニ付しバラく語、八過ニ宿罷出、三十殿へ參、夜ニ入八前帰宿仕候、酒井作右衛門殿、渡部源藏殿、小嶋助左衛門殿御出候、菅沼九兵も被參候、満林、満真も參候、夜ノ四時分佐野福阿弥も被參候、半十郎と申者參、舞うたい申候、吉弥と申上手之舞手も參候

同十一日

今朝四時分ニ罷出、則致御目見しはらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一今晚長徳院へ振廻ニ參候ニ付、八時分ニ宿罷出、夜ニ入五過ニ帰宿仕候、真鍋五郎右衛門迄相客也、幸若彦右衛門、同又右衛門參、備中之舞御座候

同十二日

今晚片桐石見殿私宅へ御出候、藤林助之丞、同主馬、葛野九郎兵衛相伴也、但九郎兵衛ハ先約之所へ參、茶之時分參候

一村越道半老ヲ石見殿御誘候へ共、先約之所へ御越、夫々直ニ暮合前ニ御出候、夜ノ五時分ニ後段出候、扱道半老へも茶ヲ進緩々と御咄、四前ニ何も御帰候、菅沼九兵衛勝手者也、右振廻故今日ハ御屋敷へ不罷出候

同十三日

今朝四時分ニ宿罷出、水野民部殿一昨日酒湯御懸り候祝儀ニ參、夫々直ニ御中屋敷へ罷出候処ニ、松平亀千代殿ヲ為使片倉小十良參、御対面被遊候処へ罷出、御あいさつ申上候

一 小十郎退出候時分拙者ニ被仰付候ハ、先年於大坂表後藤又

兵衛ヲ親小十郎手へ打取候由、又兵衛死がいヲハ田の中へかくし置候ヲ、以後ニ見出し首ヲ上ケ候由、左様ニ而候つる哉承候様ニとの儀ニ御座候故、遂候而罷出候時分相尋候へハ、首ハ取候者無御座候、鉄砲ニ而打たをし申候ヲ五六人程ニ而引かけのき候ヲ見申候と申者ハ御座候つる由、其場所ニ又兵衛甲ノ立物黒キ半月も打おり御座候つる申伝候と小十郎被申候、其段則御前へ申上候、拙者儀其以後しばらく御屋布ニ罷有、八前ニ帰宿仕候

同十四日

今朝四前ニ罷出、追付致御目見しばらく御前ニ罷有、昼過ニ御中屋布罷出、水野主膳方へ見廻申候、是ハ去十日主膳私宅へ被參候ニ付而也、然所ニ主膳留主ニ而申置罷帰候、明日千寿院為御使玉沢へ被參候ニ付而、宮地久右ニ用所有候故、又直ニ御中屋布へ罷出、久右、千寿院にも逢申、七前ニ帰宿仕候

同十五日

今朝四時分ニ罷出候処ニ、則首尾能致御目見しばらく御前ニ罷有、昼過ニ御中屋布罷出、御上屋敷へ致伺公、宮様、

長光様へ今日之御祝儀申上、御用人衆部屋へも参、八前ニ
帰宿仕候、其節左京様へも致伺公候

同十八日

一 今晩ハ御年越ニ而御座候ニ付、如例七半時分ニ又御中屋布
へ罷出候処ニ、御祝之御膳出能時分ニ而御前へ罷出、御祝
儀申上候、御機嫌残所無御座被召上候、御くわし二色御手
方奉頂戴、暮合ニ帰宿仕候

同十六日

今日ハ立春故、如例今朝御肴指上ケ四前ニ罷出候処ニ頓而
御尋ニ而、則御前へ罷出、今日之御祝儀御機嫌能被為成御
座候段、千秋万歳目出度奉存之旨申上、しばらく御咄之御
あいさつ申上候

一 昼前ニ松平彦岐守様御同道ニ而、九鬼千之助殿御出、頓而

御座之間ニ而御対面被遊、御吸物出御盃こと被遊候、其刻
来国光代金拾枚之御腰物千之助殿へ被遣候、拙者持罷出候、
御退出以後拙者儀首尾能、昼過ニ帰宿仕候

同十七日

今朝四時分ニ罷出候処ニ、はや御座之間へ出御被遊御年譜
御聞被為成候、則罷出致御目見御前ニ良しばらく罷有、昼
過ニ帰宿仕候

今朝四時分ニ罷出候処ニ、昼前ニ相模守殿御出被成候、是
ハ一昨日千之助殿御出ニ付而之御礼也、頓而御対面被遊し
ばらく御咄御帰被成候、其以後荒尾志摩致伺公候ニ付而御
前へ被召出候、右相模殿御出之節、又志摩御前へ被召出候
節も拙者罷出御あいさつ申上、昼過ニ帰宿仕候

一 兼日之約束ニ而、今晚菅沼九兵衛所へ山口焉求被参候ニ付、

我等も八時分参語申候、日ノ入時分ニ中根日向殿、渡部
源藏殿、九兵衛所へ御出、日向殿ハ夜ニ入頓而御帰候、源藏
殿ハ跡ニ御残緩々と御語、夜半時分ニ拙者とも一同ニ御帰
候

同十九日

今朝四時分ニ罷出、頓而致御目見しばらく御前ニ罷有、八
前ニ帰宿仕候

一 七前ニ阿部豊後守殿御出之由申来候ニ付則罷出候、御座之
間ニ而御対面被遊、御吸物出御盃こと御座候而、御前ニ而
宗佐御茶たて申候、右御茶大殿様被召上、扱豊後殿参候而
拙者ニ被下候、御気色之儀御咄被遊、豊後殿にも御養生之
儀など御あいさつにて、けんじつと申茶、すいとほうと

と申茶などの儀御申緩々と御咄、日ノ入前ニ御帰候、其以
後拙者帰宿仕候

一長光様御内証方御登城被遊候様ニ被成度由、安宮様方御台
様江被仰上候由、其段早速御台様被達上聞候処ニ、御対面
可被遊との上意之旨從御台様、安宮様江被仰進候ニ付而、
其段大殿様へ被仰達候、此段早速拙者ニ申聞候様ニと御意
之旨、成田八大夫奉ニ而夜ニ入六半時分ニ被申聞候ニ付、
頓而御屋布へ罷出候処ニ、御前へ被召出御祝儀申上良しバ
らく御前ニ罷有、四前ニ帰宿仕候

同廿日 少雨降

今朝四時分ニ御上屋布へ罷出、御用人衆部屋へ參、長光様
御登城之儀相濟候、御祝儀中川七左、大沢善右ニ申達、夫
方宮様御殿へ致伺公、右御祝儀申上、夫方御中屋布へ罷出
候処ニ、追付致御目見しバラく御前ニ罷有候

一長光様昼前ニ御中屋布へ被成御座良しバラく被為成御座候、
是ハ頓而御登城可被遊候間、御札之御作法なとヲも御おし
ゑ可被成との御様子也、長光様御帰被為成候、御跡ニ拙者
儀御中屋布罷出、左京様へ伺公いたし、大七郎様御機嫌奉
伺、八前ニ帰宿仕候

一七半時分ニ御用御座候間、罷出候様ニと畔田半右方被申越
則罷出候、日ノ入時分御上屋布方海野五郎三郎御中屋敷へ
伺公いたし、御城女中衆方之文の通申上候、民部卿も被參

右之様子被申上、御機嫌之御事也、拙者儀夜ニ入帰宿仕候

同廿一日

今朝御堂へ之御代參被仰付候ニ付而、日出前ニ罷出候

一御経之内左京様御配膳被遊候、御経過候而御名代之御焼香
拙者相勤申候、其以後左京様御焼香被遊候

一左京様御退出以後、拙者儀如例御花桶指上奉拝、夫方御殿
へ罷出、御代參相勤申候段御用人衆迄申達、五過ニ帰宿仕
候

一四過ニ御上屋敷へ罷出、御用人衆部屋へ參、来正月安宮様、
長光様御登城被遊候様ニとの御儀、目出度奉存候旨申達、
夫方宮様御殿へ致伺公右御悦申上、夫方又御中屋敷へ罷出、
則致御目見良しバラく御前ニ罷有、八前ニ帰宿仕候

同廿二日 夜ノ内方今朝迄少雪降

今朝四時分ニ罷出、則致御目見御前ニしバラく罷有、昼過
ニ帰宿仕候

一大殿様江明日安宮様御膳御上ケ被成候ニ付而、拙者式ニも

御勝手にて御料理可被下旨、先刻御使者被成下候ニ付而、
為御礼八時分ニ安宮様御殿へ罷出候

一御上屋布を直ニ水野主膳方へ振廻ニ參候、大久保甚兵衛、
高田庄右殿、小嶋助左殿、渡部源藏殿、正木甚五兵衛、山
口爲求老も被參候、幸若弥次郎、同次郎右衛門舞御座候、
夜打曾我一番、其外小舞数々也、夜半過ニ帰宿仕候

同廿三日

今日大殿様へ安宮様於御中屋敷御膳御上ケ被成候ニ付而、
拙者儀四時分ニ罷出候、昼前ニ御能初り、二番過候而御膳
出申候由、其節何もニも御勝手ニ而御料理被下候、拙者儀
少持病氣故、御茶迄頂戴の上、海野五郎三郎方ニ御祝儀御
礼等申達、八過ニ帰宿仕候、市十、平次右ニも右之段申達
罷帰候

一 大七郎様今日御酒湯被為懸候ニ付而、為御祝儀大殿様、左
京様、同御奥様、大七郎様へ御肴一種つ、指上ケ申候

同廿四日

拙者儀昨日も少持病氣ニ御座候ニ付、今日ハ不罷出候

一 大七郎様昨日御酒湯被為懸候、為御祝儀昨日御肴指上ケ申
候ニ付、今朝四時分ニ左京様を為御使者伊与田平左衛門方

被成下、過分忝仕合也

同廿五日

今朝四前ニ御上屋布へ罷出、先御用人衆部屋へ參、夫を安
宮様御殿へ致伺公、一昨日御中屋布ニ而之御振廻、天气迄
能御座候而目出度奉存候、就夫拙者式ニも御勝手ニ而御料
理被下、過分忝仕合奉存候、とく御礼ニ可罷上処ニ、一兩
日持病指発延引仕候旨、海野五郎三郎方迄申達候

一 御上屋敷を左京様へ致伺公、昨日御使者被成下候御礼又延
引致候段、右之通鈴木四郎兵衛方へ申達候、然所ニ片桐石州
御出候故、左京様御対面被遊良しはらく御咄被成候、其御
あいさつ申上候

一 一昨日為御祝儀御肴指上ケ申候ニ付而、今朝御上屋布へ罷
出候跡ニ、左京様、奥様を御使者被成下候由申越候ニ付而
直ニ致伺公、右御礼申上、夫を大七様へ致伺公御酒湯被為
懸候御祝儀、又弥御機嫌能被為成御座候哉と奉伺候

一 夫を御中屋布へ罷出、則致御目見良しはらく御前ニ罷有、
昼過ニ帰宿仕候

一 大殿様御登城被遊度旨、頃御老中迄御尋被為成候処ニ、明
日御登城被遊候様ニとの儀ニ御座候由、今朝承候ニ付、明

日之御供拙者相勤申度旨申上候処ニ、左候ハ、御供可仕旨被仰出忝仕合也

同廿六日

大殿様今度御病後始而今日御登城被遊候、天氣迄能御首尾残所無御座候、今朝四過ニ御帰館被遊候つる之御供、拙者ニ被仰付候ニ付、今朝五過ニ御中屋敷へ罷出、少御先へ罷上御供相勤、御帰館以後良しバラく御屋布ニ罷有、八前ニ帰宿仕候、対馬守も御城へ罷上候

一明日大殿様へ左京様御膳御上ケ被為成候ニ付而、拙者式ニも御勝手ニ而御料理可被下由、今朝罷出候跡ニ御使者被成下候由申越候ニ付、御中屋布より直ニ左京様へ御礼ニ致伺公候

一今日始而御登城被遊候、為御祝儀大殿様へ御肴一種指上ケ申候

同廿七日

今日大殿様へ左京様於御中屋敷御膳御上ケ被為成、御能ヲも被仰付候、皇帝喜大夫、田村喜大夫、芭蕉大つ、ミ九郎兵衛、桜川喜大夫、邯鄲、是界喜大夫、祝言、以上七番也、拙者式ニも御勝手ニ而御料理大御酒被下候、其以後大殿様御前へ罷出

御祝儀申上候処ニ、御機嫌之御事ニ而御のし頂戴仕候、拙者儀今朝四時分ニ罷出、七半時分ニ帰宿仕候

一市十、平次右、九郎左、久右、太郎八、左五之丞、其外あまた日暮候と私宅へ被参、又御酒給年忌候とていわひ被申四時分ニ被罷立候

同廿八日

今朝四時分ニ御上屋布へ罷出、先御用人衆部屋へ参、今日の御祝儀歳暮之御祝儀ヲも申、夫より宮様御殿へ致伺公、右之通申上、夫より左京様へ致伺公、右之御祝儀、又昨日の御振廻首尾能相済申目出度奉存候旨、就夫拙者式ニも御料理被下候御礼等御用人衆迄申置、御中屋布へ罷出候処ニ、頓而致御目見今日の御祝儀、昨日之御祝等申上、昼過ニ帰宿仕候

一今八過ニ左京様御下屋布へ御出被成御様物御座候、拙者道具内々一つ御影ヲ以ためし申度由、鈴木四郎兵ヲ頼申上候処ニ、可被下由御意ニ而、右之道具拙者持参仕罷出候処ニ、則一ノ胴致拝領了戎之脇指ニ而勘十郎切申候処ニ大切仕候、其場ニ而御礼申上、則持参仕候三つ刀御座候へ共、中々二つ迄ハ申上間布と存候処ニ、菅沼九兵衛ハ様可申刀無之候

間、主刀ニいたし可申上由、立而九兵衛申候ニ付、其通ニ
いたし候処ニ、是又一ノ胴被下置、兼長之刀ニ而勘十郎切
申候処ニ、是又大切仕候由、重畳之仕合也

同廿九日

今朝四前ニ宿罷出、左京様へ致伺公、昨日拙者道具、一腰迄
御様させ被下候御礼、四郎兵、九兵ニも申達、夫方帯刀所
へ見廻、扱御中屋布へ罷出候、頓而致御目見、御前ニ良し
ばらく罷有、昼過ニ帰宿仕候

一拙者儀持病之せんき故、惣而近年行寿不自由ニ御座候処ニ、
頃ハ別而かいな足痛、立居不自由ニ御座候ニ付、元日御城
へ罷上、御流呉服など頂戴仕候儀、可罷成様ニ不奉存候間、
元日ニハ何もなニ罷上得間布旨、市十、平次右ヲ頼達御
耳、扱一昨日彦坂儀左衛門方へ、右之段大橋市左衛門を以
申遣、自然御城ニ而御尋の方も有之候ハ、左様被相心得
給候様ニ、福阿弥へハ此方右之段物語被致給候様ニと申
越候ニ付、今日福阿弥へ儀左衛門物語被致候処ニ、則土屋
但馬守殿へ委被申候由、高木伊勢守殿へも右之段被申候処
ニ、左候ハ、太刀目録ハ明日指上ケ候様ニと御指図之由、
福阿弥被申候由、儀左衛門方被申越候ニ付、其段市十、

平次右を以達御耳候処ニ、伊勢守殿御指図の通ニ指上ケ可
申之旨被仰出候、委細ハ別紙ニ書付とも有

一今晚如例七半時分ニ御中屋敷へ罷出、御いわひ之御膳之上
御くわし出候時分、御前へ罷出御祝儀申上候、扱少御用之
儀御座候而、しばらく罷有、六半時分ニ帰宿仕候